


第17回岡山県「内田百閒文学賞」受賞作品

【優秀賞】（岡山県郷土文化財団理事長賞）

作品名	へのへの茂次郎 ^{もじろう} （ジャンル：短編小説）	
作者名	ひきた 疋田 ブン（ペンネーム）	
プロフィール	<ul style="list-style-type: none">・昭和37(1962)年9月16日生（62歳）・東京都在住・会社員〈受賞歴〉なし	

作品の概要

舞台は、明治中期の邑久郡本庄。少年茂次郎（のちの竹久夢二）は、出かけた岡山で女の身投げを目撃する。その時、胸に抱いていたのは、のっぺら坊の凧。茂次郎には秘密の遊びがある。その秘密があらわになった時、その羞恥と後悔を誤魔化すように、のっぺら坊に目鼻口を入れる。ある日、目鼻口を入れたのっぺら坊の凧を揚げるが、月見草が咲く川に落ちる。その頃、本庄に女旅芸人の一座が現れる。一座の座長に父が貢いだと母は泣く。茂次郎は両親の言い争いから逃れようと、落ちた凧を川に見に行く。そこで女旅芸人と男がもめている現場にでくわす。身投げした女の記憶に、川の水に消えたのっぺら坊の顔と、目の前の女旅芸人が錯綜する。錯綜しながら、茂次郎は大人ぶって、月見草の別名は、『宵待草』だと言う。女旅芸人は、それは間違っていると言う・・・・・・・・。

審査員講評

凧、のっぺら坊、鷺、月見草などささやかな物を印象深く描きながら、竹久夢二の少年時代を色彩やかに浮かび上がらせた作品。尚かつ、夢二の芸術的センスの萌芽を予感させる面白さにも心ひかれる。

※年齢は令和6(2024)年12月10日時点